

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3670101363		
法人名	有限会社 シルバーケア		
事業所名	グループホーム春日苑川内		
所在地	徳島市川内町沖島273番		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101363&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101363&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年11月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

“我が家のような環境で暮らす”という思いで開設し、木をふんだんに使った平屋建てで、広い敷地には中庭や菜園等があり、ゆとりが感じられる空間となっている。「地域の中でひとりの人として当たり前のような生活ができるように支援していきます」という理念のもと、地域に根付いた事業所を目指している。また、職員は利用者の「できること探し」に取り組み、利用者一人ひとりの持てる力を引き出すよう努力し、ユニットごとに特色のある実践を行うことでお互いを研鑽し合い、サービスの質の向上を目指している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、木造平屋建てで広い敷地内に建てられている。共用空間やウッドデッキ、居室はゆったりとして開放感がある。「地域の中で一人の人として当たり前の生活ができるように支援していく」という理念をつくり、ケアを実践している。地域との関わりを大切に、事業所の主催する行事に地域の方を招待している。また、利用者は文化祭で踊りを披露したり手作りの作品を出品するなど、地域の一員として生き生きと生活している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症であっても、地域の中で一人の人として当たり前の生活ができるように支援していきます」という理念のもと、日々唱和して実践に向け取り組んでいる。	開設当初につくった、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を大切にしている。玄関や事務室、廊下に掲示し、毎朝のミーティング時に唱和し、日ごろのサービスに反映できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の学校との交流を図り、町民運動会や文化祭等の地域行事に参加し、日常的に地域との関わりに努めている。	町内会に加入して地域行事に参加したり、近くの幼稚園児・小学生・中学生の来訪を受け入れている。また、地域住民に、事業所主催の祭りへの参加を呼びかけ、多くの方に参加していただく等地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での実践報告や、近隣の事業所訪問等を通して実践している支援方法や認知症の人への理解など地域に向けた啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回テーマを決めて実践報告を行い、サービスの質の向上に向けて意見を求め、実践に役立っている。	運営推進会議では、事業所の現状や取り組み状況を報告している。参加者からの意見や要望等を検討し、議事録をまとめて職員が閲覧している。しかし、会議内容の記録が十分とはいえない。	職員や関係者が、会議内容を理解・共有するために記録を行い、サービスの質の向上に活かせるよう取り組まれない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等を利用して、事業所での取り組み内容を伝え、日常的に協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市担当者に、運営推進会議の議事録を送付し、事業所の取り組み状況を知らせている。また、生活保護や障害者の届出等の定期的な報告以外にも、随時、直接窓口に出向き、相談や指導を受けて協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加するとともに、職員会議でマニュアルの復唱や勉強会を行い、身体拘束排除に向けたケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する理解を深め、見守りを十分に行って安全に配慮している。玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に参加するとともに、職員会議でマニュアルの復唱や勉強会を行い、虐待防止に向けたケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で権利擁護に関する研修を行い全職員が理解し、実践に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には十分な説明を行い、納得と理解を得たうえで契約や解約、改定を行っている。また、代理人以外に身元引受人も契約時に必要とし、複数の方に理解を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等のなかで、利用者の家族に参加を呼びかけ、民生委員を交えた場で意見交換を行い、運営に反映している。	重要事項説明書に相談窓口を明示している。また、苦情処理ポスターの掲示や意見箱を設置している。家族から出された要望等を職員間で検討し、運営に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で運営に関する意見や提案について話し合い、反映するようにしている。	定期的に職員会議を開催し、意見や提案を聞いて運営に反映させている。また、個人的に話し合う機会を設け、勤務変更や夜勤免除等、職員の状況や希望に応じた態勢を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も含めた全職員に対して人事考課を行い、向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、職員一人ひとりのレベルに応じた研修を受ける機会を確保し、働きながらトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外研修など、他事業所と交流する機会を設け、サービスの質の向上に向けて様々な取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の困っていることや不安な思いなどを聞く機会を持ち、安心した生活を送れるように配慮し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安、要望等になるべく応じられるように配慮し、早期に信頼関係を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いにより、現在、優先度の高いサービスを中心に提供し、他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日ごろの暮らしのなかで、家事や手芸等、利用者のできることを通じた支援を行い、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会等、家族だけで過ごせる場を提供している。また、近況報告や意見・要望を聞き、利用者とともに支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人の面会の受け入れや馴染みの場所へ外出の機会を設けることで、関係が途切れないような支援に努めている。	馴染みの人の来訪時には、ゆっくりと過ごせる場所の提供に努めている。墓参りやお気に入り美容院へ出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるように、家族と相談しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション体操や行事等を通じて、利用者間のコミュニケーションが図れるように、職員が橋渡しを行い、利用者が孤立しないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者や家族にも、行事への参加を呼びかけて関係性を継続するとともに、必要に応じて相談に応じることで、その後のフォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意向を尊重し、重度化に至った場合もなるべく職員が援助を行うことで継続的な支援に努めている。	独自のアセスメント用紙等を活用し、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、その人らしい暮らしができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし、生活環境、入所からの経過等を把握し、一人ひとりに合わせた暮らし方の支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのできることに着目し、心身の状態に応じた過ごし方ができるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見・要望を取り入れるとともに、関係職員で協議し、個別の介護計画を作成している。	利用者や家族、関係者の意見や要望を反映した介護計画を作成している。また、職員間で話し合い、定期的または状態変化時にモニタリングを行って、現状に応じた介護計画となるよう心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り等の情報を職員間で共有しながら、実践やケアプランの作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア、保育所等と協働しながら、利用者が心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関等と連携を図り、必要な医療を受けられるように支援している。	週2回、協力医療機関の訪問診療を受けている。希望者は週1回、心療内科を受診できるような体制を整えている。また、本人や家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう、家族と相談しながら付き添いや送迎、情報提供等を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連絡ノートを利用し、介護職員の情報を医師や看護師に伝達し、利用者一人ひとりの状態把握に努めている。また、医療関係者との情報の共有に努め、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と、心身状態等の情報交換を行い、入退院後のダメージを少なくするような関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化における方針の説明をしている。また、本人の状態変化等に応じ、事業所での対応を家族に十分に説明するとともに関係者と方針を共有し、連携が図れるよう調整を行っている。	重度化した場合の方針を契約書に記載している。職員の研修等を行い、万全の環境を整えられるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	作成したマニュアルを使用し、定期的に勉強会を行い、緊急事態が発生した場合でも十分な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震時にも対応した避難訓練を定期的に実施している。また、マニュアルや緊急連絡網を活用しており、運営推進会議で地域住民の方へ訓練の参加の呼びかけを行い、災害時の応援体制の確保に努めている。	年2回、消防署員の指導のもと、利用者や地域住民が参加して避難訓練を実施している。運営推進会議でも議題として取り上げ、地域の協力が得られるようお願いしている。備蓄品も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴や人柄を把握し、誇りやプライバシーに配慮した支援を心がけ、ゆっくり落ち着いた言葉かけを行っている。また、傾聴の姿勢を心がけることで利用者から話しかけやすい雰囲気づくりに努めている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないように職員間で経験を共有しながら、言葉かけや態度に十分注意して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの思いや希望に、職員が耳を傾け、利用者が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースや過ごし方の希望を聞き、夜間入浴なども含めて、その人らしい生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの個性を活かし、その人らしい服装やおしゃれを楽しむ支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な食材の買物や、食事の準備に参加することで達成感を得てもらっている。利用者や職員間で活発にコミュニケーションを図りながら食事ができるように支援している。また、苦手な献立には代替食を提供している。	食材の下準備や盛り付けなど、利用者一人ひとりの力を活かしながら職員とともに準備し、同じテーブルで食事をしている。また、食材や形態を変えたり外食をするなど、食事が楽しいものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた刻み食やミキサー食等を提供し、食事量や水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の指導のもと、利用者一人ひとりの残存能力に応じた口腔ケアを心がけている。また、義歯洗浄剤等を使用し、清潔保持にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンや習慣を把握し、排泄の失敗やおむつの使用を軽減できるような支援を行っている。	紙パンツ使用者には、チェック表を活用して排泄パターンや習慣を把握している。また、タイミングを見計らって声かけや誘導を行うことで、トイレでの気持ちよい排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や野菜の摂取を勧めている。また、便秘予防として散歩やレクリエーション体操を日課としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に本人の希望を確認して、自分の意思で楽しく入浴してもらえるような支援に努めている。	毎日、入浴できるよう支援している。週2日、夜間入浴の希望にも対応できるよう体制を整えている。入浴用の車椅子や檜風呂での入浴が可能となっている。医師の判断や協力も得ながら、利用者一人ひとりが気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調に合わせて、昼寝をしてもらうなどそれぞれの生活習慣を大切にしながら、ストレスを取り除いて安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からの説明を受け、利用者一人ひとりの薬の目的や用量・用法等を理解して、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や能力に合わせて、家事等の役割を担ってもらい、充実した生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの希望を確認しながら、外食等の支援を行っている。また、家族の協力のもと、墓参りなどの外出の機会を支援している。	庭を散歩したり、ベンチに腰をかけたり、広いウッドデッキで過ごすなど、日ごろから外気に触れる機会を多く設けている。また、ドライブや外食、季節の行事など、利用者が楽しみにしている外出を計画的に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの希望や能力に応じ、金銭管理や買物支援を行っている。また、外部からの移動販売により、利用者がお金を使う機会も作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話の利用や季節の便りなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地良く過ごせるよう、清潔を心がけている。また、年間を通じて季節感を味わってもらえるよう飾り付けを行い、四季を体感できるような空間づくりに努めている。	玄関や廊下、ホールなど広々とした共用空間に、鉢植えの花や利用者の手作りの造花ちぎり絵、習字、タペストリーなど多くの作品を飾っている。木のぬくもりや明るい陽射しとともに温かさの感じられる空間をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやテラスには、テーブルや椅子を設置し、利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや季節感を感じられる物を置き、明るい雰囲気の中利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室は、和室と洋間の2種類あり、好みの部屋に使い慣れた家具やテレビ、仏壇など、思い思いの品を持ち込んでいる。家族と相談しながら配置を考え、居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室等には大きく表示を行うことで場所の認識がしやすいように工夫している。事業所はバリアフリー仕様のため安全であり、なるべく自立した生活が送れるように配慮している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			うめユニット 実践状況	さくらユニット 実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症であっても、地域の中で一人の人として当たり前の生活ができるように支援していきます」という理念をかかげ、毎朝の申し送り時にで唱和し実践につなげている。	職員の毎朝の申し送り時に必ず運営理念を唱和し、理念どおりに実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	事業所は町内会に所属し、地域の行事等に参加するなど、利用者が地域の一人員として、日常的に交流できるように努めている。	地域の文化祭や秋祭り、町民運動会等の行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議への利用者や家族、地域の方々の参加を呼びかけ、実践報告を行って啓発に努めている。	近隣のスーパーや美容院等への外出支援を行うことにより、地域の人達との交流を図っている。また、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて発信している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニットごとの持ち回りで取り組みの発表を行い、参加された方々からの意見やアイデアをサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議では、取り組んだことを発表してサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点等があれば相談し、サービスの質の改善に取り組んでいる。	疑問等の相談や運営状況を伝えることで連絡を密に図り、市町村との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等を開催し、施錠を含め身体拘束をしない取り組みを行っている。	「身体拘束廃止」を掲げたマニュアルを作成し、利用者や家族、全職員に向けて周知徹底に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで高齢者虐待防止について学ぶ機会を持って、利用者が安心して暮らせるよう防止に努めている。	研修や職員会議等で議題として取り上げ、防止の徹底に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		成年後見制度を利用した経緯の中で、学ぶ機会も多くあり、活用している。		権利擁護に関する資料をもとに学習の場を設け理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		入居契約や解約時には、利用者や家族等に十分な説明を行い、納得を得たうえで契約・解約している。		契約や解約時には、必ず職員2人で立ち会い、十分な説明を行うように努めている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		面会時等に利用者や家族等からの意見を聞くようにしている。特に苦情等は記録と申し送りを行っている。また、事業所内に「苦情・相談窓口」のポスターの掲示や意見箱の設置をし、出された意見等は運営に反映している。		玄関先に、意見箱を設置することで気軽に意見や要望が言えるような工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		定期的なユニット会議や職員会議のほか、職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けて、運営に活かせるようにしている。		職員会議や申し送り時等には、必要に応じて意見交換を行い、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		自己評価表での職員一人ひとりの目標に対する努力等を反映したり勤務希望を取り入れた勤務表を作成している。勤労者福祉サービス事業への加入を行う等、休養や気分転換が図れる環境づくりに努めている。		福利厚生面の充実などを図り、体調管理に努めている。また、職員一人ひとりがやりがいを有する働きやすい職場環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		職員一人ひとりの力量を把握して、それに応じた研修を受けられるように取り組んでいる。また、職員会議等で報告をすることにより、全職員のスキルアップを図り、資格取得に向けて勉強する機会を確保している。		自己評価表を作成し実施している。また、職場内外の研修に参加する機会を設けるなど、一人ひとりがスキルアップできる機会づくりを行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		事業所間の交流や、ネットワークづくりを推奨し、相互訪問や見学の受け入れ等を通して情報交換等を行い、サービスの質を向上させていくように取り組んでいる。		他事業所への訪問や職場外研修への参加の機会を設けている。他事業所と交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族とコミュニケーションを十分に図り、生活歴やペースに合わせて無理強いをせずに安心感が持てるような関係づくりに努めている。	本人の話に傾聴することで、信頼関係を構築できるように努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の意見や要望を取り入れ不安を取り除き信頼関係が築けるよう努めている。	家族等の考えや要望に応じ、話を傾聴しながら信頼関係を構築できるよう努めている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている優先度の高いサービスを中心に提供し、他のサービスの利用も含めた対応に努めている。	本人や家族等の要望をもとに、必要なニーズを抽出し、他サービス利用も含め、できる限りの対応に努めている。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等の軽作業を一緒に行う中で、本人の出来ることを探し、互いに役割分担をしながら信頼関係を築いている。	日常生活の中で、家事や手芸などの軽作業を行いながら、ともに支え合い信頼関係を構築している。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会等には、家族だけで過ごせる時間や場を提供している。また、年賀状や写真、葉書等により近況報告を行い、関係作りをしている。	面会時に、家族だけで過ごせる場を提供したり、家族と外食や外出が楽しめるように配慮している。本人と家族の距離が遠くならないような関係づくりに努めている。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人の面会や電話の取り次ぎの機会を設けている。居室やホールで、ゆっくり会話を楽しむ場を提供し、関係継続の支援に努めている。	友人や知人の面会の場を提供し、関係が途切れないように努めている。				
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	踊りや歌、手芸で共同作品を作るなど、皆で喜びあえる場面を設けて、利用者同士の良好な関係を築くことができるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、趣味活動等の中で、仲間とのよりよい関係作りができるような支援に努めている。				

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		サービスが終了しても家族連絡や入院時のお見舞い等で状況把握をし、本人や家族へのフォロー、相談、支援を行なっている		近況を尋ね、状況を把握するとともに、必要に応じ、相談や支援を行い、関係が途切れないように努めている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		本人や家族等とコミュニケーションを図り、なるべく本人の希望や意向を把握して反映し、その人らしい暮らし方ができるような支援に努めている。		本人や家族等の暮らし方の希望や意向をなるべく把握し、反映できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		馴染みの家具等を居室に設置して使用するなど、なるべくこれまでの生活環境を変えない暮らし方の支援に努めている。		生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、その人らしい暮らしができるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		残存機能を把握し、職員が強要することなく利用者一人ひとりの過ごし方に合わせた支援に努めている。		常時、心身の状態に気を配りながら現状の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		モニタリングを行い、本人や家族等の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		モニタリングを行い、本人や家族等の意見やアイデアを取り入れながら、利用者一人ひとりに合ったケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		全職員は、介護記録やモニタリング等で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		記録等の情報を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		その時々本人や家族の要望に合わせて、柔軟な支援やサービスが提供できるように取り組んでいる。		状況に応じた要望に対応し、柔軟な支援やサービスが提供できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			うめユニット 実践状況	さくらユニット 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性に応じて、地域の銀行やスーパーなどの地域資源を活用しながら、本人が心身の力を発揮できるよう支援している。	ボランティア等の地域資源を活かし、利用者一人ひとりが生きがいをもち、安全に暮らせるよう支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関を受診しながら、必要に応じて協力医療機関等との連携のもと適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関等の訪問診療も行われているが、本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医との連携を図り、必要な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連絡ノートを利用し、利用者一人ひとりの体調等を看護師に伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。	看護師に、口頭や「医療申し送りノート」を使用して申し送ることで、状態を正確に把握できている。利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、なるべく馴染みの職員がお見舞いに行くことで、関係を継続できるように努めている。退院の際も、本人のダメージを軽減するために、病院関係者との情報交換や相談等、関係づくりに努めている。	医療機関との情報交換や連絡を密に図ることで、利用者のダメージの軽減と病院関係者や事業所双方の関係づくりを行っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針を示し、利用者や家族に対して段階に応じ事業所でできることを説明している。医療関係者等を含めチームで支援に取り組んでいる。	本人や家族の意向を聞き、事業所としてできることを説明し、関係者とともにチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの説明会や救急法の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修や勉強会等で消防署の協力のもと、訓練し実践力を身に付けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、定期的に地震や火災訓練を行っている。地域の方にも参加を呼びかけている。	災害等における訓練を消防署の指導のもと、定期的に行い実践力を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に関する勉強会を定期的に開催している。職員一人ひとりが、利用者のプライバシーに配慮した声かけや対応方法を身につけ実践している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した声かけや対応を行うように努めている。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレクリエーションへの参加、買い物等の日常生活のなかでも、利用者が希望を表したり、自己決定ができるように働きかけている。	コミュニケーションを図るように心がけ、利用者の思いや希望を表したり、自己決定ができるような働きかけを行っている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活を、職員側の都合にあわせるのではなく、一人ひとりのペースを大切に、希望にそって支援を行っている。	利用者一人ひとりの状態や希望に応じ、日中の睡眠や食事時間の調整等、利用者の生活ペースを大切にするような支援を行っている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように洋服選びやメイクの支援している。	本人のなじみの美容院を利用したり、メイクや洋服選びなど、その人らしいおしゃれができるように支援している。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせ、職員と一緒に食事の準備や後片付け等に参加し、食事が楽しめるように支援している。	盛り付けや配膳、食器洗いなどを職員と一緒にに行い食事が楽しめるように支援している。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医の指導のもと利用者の病状を把握し、食事や水分の摂取に努めている。また、利用者一人ひとりの状態に合わせ、食器や食事の形態にも工夫している。	利用者一人ひとりの状態や力に合わせ、刻み食等の提供や食事介助を行い、必要な食事や水分の摂取に努めている。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に合わせた口腔ケアを行っている。特に夕食後の口腔ケアをていねいに行い、義歯洗浄剤を使用するなど清潔保持に努めている。	利用者一人ひとりの残存機能を活かした口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。				

自己	外部	項目	自己評価	うめユニット	自己評価	さくらユニット	自己評価
				実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		本人の力や排泄パターン、習慣を活かしてトイレの声かけや誘導を行っている。紙パンツから布パンツに移行できるような自立に向けた支援に努めている。		本人の排泄パターンや習慣等を把握し、持てる力を活かしてトイレでの排泄ができるように、声かけや誘導の工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		水分補給や食事の工夫、散歩等の支援を行っている。		水分摂取や適度な運動を心がけ、利用者一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている		声かけをしながら、利用者の体調に合わせてゆったりと入浴できるような見守りに努めている。夜間入浴も希望に応じている。		利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴ができるような支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		利用者一人ひとりの状態を把握するとともに、生活リズムや寝具を調整し、安眠できる環境づくりを行っている。		寝具や照明の調整等を行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		薬剤師による薬剤管理を行っているが、薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、利用者の体調等の変化の確認に努めている。		薬剤情報に目を通すことで、薬の目的等を把握し、利用者の服薬の支援と体調の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		利用者一人ひとりの力を活かした手芸や家事等で楽しみごとや役割を担い、張り合いや喜びのある毎日が送れるように支援している。		利用者の持っている特技や好きなことができる場を提供し、楽しみや気分転換ができるように支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		ドライブや買物等の日常的な外出以外に、墓参りや美容院への外出も、家族や地域の方々の協力のもと支援している。		外食やドライブなどその人の希望や状態に合わせた外出ができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			うめユニット 実践状況	さくらユニット 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や外出等、利用者一人ひとりの能力や希望に合わせてお金を使う機会を設け、所持と支払いができるように配慮している。	買い物や外出、外食をする時に、自ら支払いをして、使える喜びを得られるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙、電話のやりとりなどが日常的に行えるように支援をしている。	手紙や電話のやり取りが日常的に行えるように支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激が無いように配慮している。生活感や季節感を取り入れ居心地良く過ごせる工夫をしている。	清潔さや明るさなど、快適さを心がけることで居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外には廊下にもソファを設置しており、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるように居場所づくりの工夫をしている。	閉じこもることなく、居室では自分の時間を楽しむことができるように努めている。また、ホールでは他の利用者との会話を楽しめるような空間づくりに努めている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の馴染みのある家具等を配置し、居心地良く生活できるような支援を行っている。	馴染みの家具等を使用することで家庭と変わらない環境で居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	本人のレベルに合わせて、杖やポータブルトイレ等を使用している。トイレや居室等の表示を行うなどの配慮をし、安全でなるべく自立した生活を送れるように工夫している。	トイレや居室の表示をわかりやすくすることで、不安を感じることなく安全な生活を送れるように配慮している。	